



第2分野 生活環境

自然と共生する循環型のまちづくり



環境保全型社会の形成

第2期基本計画までの成果と課題

日常生活や事業活動から生じる環境への負荷は、温室効果ガスの排出量の増加など様々な環境問題となって顕在化しています。こうした問題を解決するためには、市民、事業者及び行政が日常の行動や事業活動において、各々の役割と責任のもと適切な環境配慮を実施することが重要となっています。

このため、環境に関する正しい知識や環境に配慮したライフスタイルの確立と、地域特性などにあわせた環境保全活動が必要とされています。

本市では、「長岡京市環境基本計画」及びその実施計画に基づき、市民環境団体と協働で、地球温暖化防止活動や、里山再生、環境教育などの事業を行ってきました。平成21年には、次の世代への責務として「“環境の都”長岡京市環境都市宣言」を行い、人と自然が共生する地域資源を生かした環境保全活動を展開しています。

一般廃棄物の処理については、11種類の分別収集や古紙などの集団回収などにより、資源ごみの再資源化が図られています。またエコタウン推進事業や分別指導員の配置などにより、市民に適正な排出指導を行い適正排出と分別に努めてきました。

今後も、市民の環境に対する意識の転換（低炭素社会への転換）を図るとともに、“環境の都”長岡京として、持続可能なまちづくりを進めることが求められています。



環境講演会(長岡京市役所)

基本的な方向

市民の日常生活における環境に配慮した行動を促すとともに、廃棄物の適正な管理や処理などの身近な取り組みを通して、快適な生活環境を維持し、人と自然が共生する環境保全型社会^{※1}の形成を目指します。

※1 環境保全型社会 … 自然環境の保全や、地球温暖化防止などの環境負荷の低減により、人と自然が共生する社会。

政策に関連する計画

長岡京市環境基本計画《平成13年度～、平成24年度改定予定》

環境の保全及び創造に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図ることを目的として策定。

長岡京市地球温暖化対策実行計画《平成23年度～》

本市全体で取り組む地球温暖化対策と達成目標を明らかにすることにより、温室効果ガスの排出量を削減し、持続可能な低炭素社会の実現を目指して策定。

長岡京市役所地球温暖化防止実行計画《平成19年度～、平成22年度改訂》

地球温暖化対策推進法に基づき策定する、市役所の事務及び事業に伴って排出される温室効果ガスの排出量の削減目標とそれに向けた具体的取り組みを定めた実行計画。

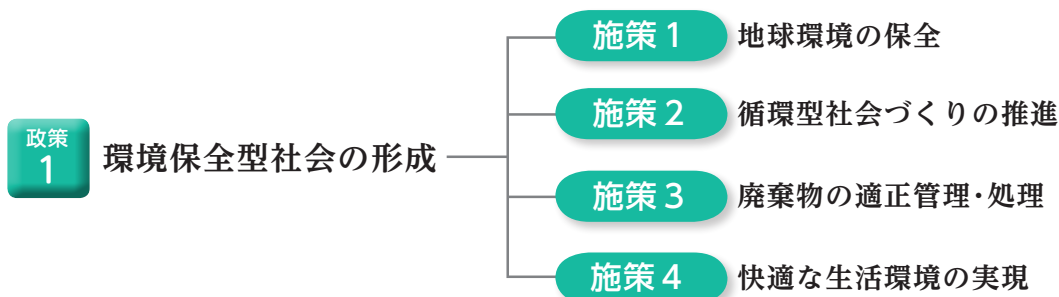
長岡京市一般廃棄物処理基本計画《平成19年度～33年度、平成23年度改訂予定》

家庭及び事業所から排出される廃棄物の10%削減、資源物の再利用率の6%増を目指して策定。

長岡京市分別収集計画《平成23年度～27年度》

一般廃棄物の中で大きな割合を占める容器包装廃棄物を分別収集し、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進と最終処分量の削減を目的に策定。

施策体系



施策と主要な事業

施策1 地球環境の保全

■目的

- ・環境を守り育てる人材と組織を育成しつつ、市民の環境に対する意識の高揚を図り、地域全体での地球環境保全に向けた取り組みを推進します。
- ・行政においても、低公害車^{※2}の導入などを通じ、環境負荷の低減に努めます。

※2 低公害車 … 車の排出ガスに含まれる窒素酸化物や二酸化炭素などの排出量が、従来の車に比べて非常に少ない車。

■主要な事業

●環境基本計画推進事業

事業の概要	目標指標
現行の長岡京市環境基本計画を見直し、つむぎ織りなす“環境の都”長岡京の実現を目指して市民や団体、企業などと協働して推進します。	自然と共生する持続可能な社会の構築を目指し、市民や企業、諸団体などと協働して、長岡京市環境基本計画を推進します。 【目標】 長岡京市環境基本計画改定、 長岡京市環境基本計画実施計画改定（平成 24 年度） 長岡京市環境基本計画中間年の見直し（平成 27 年度） 【現状】 策定から 10 年が経過し、現在の環境とのかい離がある（平成 23 年度に 10 年を経過）

●環境都市宣言啓発推進事業

事業の概要	目標指標
環境フェアの実施など環境活動への参加を促進する事業を実施します。	「環境都市宣言」の周知及び市民の環境活動への参加促進を図るとともに、環境フェアの実施など環境活動への参加を促進する市の事業及び市が関連する事業を増やします。 【目標】 3 事業（平成 27 年度） 【現状】 1 事業（平成 21 年度）

●環境監視事業

事業の概要	目標指標
大気や水質、騒音、振動などの環境調査を行い地域の環境状況を把握し、問題発生時の迅速な解決にあたります。	地域の環境状況を把握し問題発生に対応します。 【目標】 環境基準値超過の減少（平成 27 年度） 【現状】 調査数 205 項目、基準超過数 8 件、超過率 3.9%（平成 21 年度）

●低公害車導入事業

事業の概要	目標指標
更新計画に基づき、ディーゼルエンジンの清掃車両について、耐用年数を勘案しながら、環境負荷の少ない低公害車に切り替えていきます。	清掃車両の更新にあたり、環境負荷の少ない低公害車を、更新計画に基づき導入します。 【目標】 低公害車 9 台（平成 27 年度） 【現状】 低公害車 6 台を維持（平成 22 年度）

施策に関するトピックス “環境の都”を目指して～ 長岡京市環境都市宣言

本市では、この緑豊かな自然環境を次世代に引き継ぎ、市民や企業、諸団体、行政などが協働して持続可能なまちづくりに向けて積極的に取り組んでいく姿勢が必要であると考えています。

この考えを明確にするとともに「環境都市」として内外に発信するため、平成21年4月に「“環境の都” 長岡京市環境都市宣言」を行いました。

これにちなんで「“環境の都” 賞」を新たに創設し、「環境の都」の実現に貢献した個人や団体を表彰しています。今後も様々な機会を通して、環境都市宣言に掲げる内容の啓発に努めます。



第1回“環境の都”賞授賞式
(中央公民館)

施策2 循環型社会づくりの推進

■目的

- ・廃棄物を適正に処理するとともに、資源を有効に活用し、環境への負荷をできる限り抑えた循環型の社会づくりを推進します。

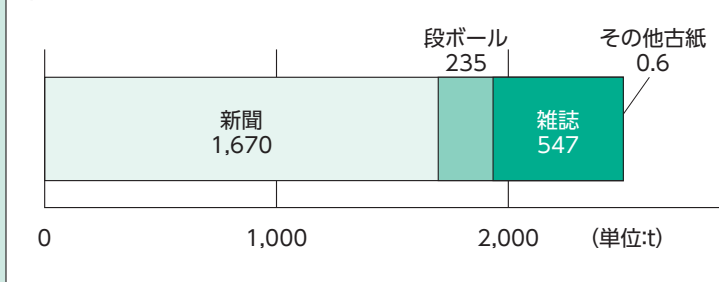
■主要な事業

●分別によるリサイクル推進事業

事業の概要	目標指標
エコタウン推進事業 ^{※1} や資源ごみ集団回収助成事業などを通じ、資源ごみの適正排出と再資源化の向上を目指します。	11種類の資源ごみの分別収集及び古紙などの集団回収の推進により、資源化量の増加を目指します。 【目標】4,300t(平成27年度) 【現状】3,799t(平成21年度)

施策に関するトピックス 資源ごみ集団回収助成事業

平成21年度の各回収物の回収量



市民のごみ問題への関心、特にごみの減量や再資源化の意識の高揚を図るため、また、資源ごみの回収を推進する団体の育成を図るため、資源ごみ(新聞や雑誌、ダンボールなど)の回収団体(子供会など)に対し、予算の範囲内において助成金を交付しています。

平成21年度には84団体が地域住民から計2,543tの資源ごみを回収しており、市民の力によって資源ごみの回収と再資源化が進んでいることがわかります。

※1 エコタウン推進事業…環境にやさしいまちづくりを实践するため、地域自治会や各種団体で行うごみ減量化事業及びリサイクル推進事業に対して支援を行い、環境への負荷の少ないまちづくりを推進する事業。

施策3 廃棄物の適正管理・処理

■目的

- ・市民と行政が一体となって、ごみの減量、適正処理に取り組み、環境負荷を低減します。

■主要な事業

●一般廃棄物等の適正処理事業

事業の概要	目標指標
市が収集した一般廃棄物を乙訓環境衛生組合で適正に処理するとともに、一般廃棄物処理計画懇話会で、今後の廃棄物行政について協議していきます。	再資源化などにより、一般廃棄物の排出量の減少を維持します。 【目標】 23,519 t (「一般廃棄物処理基本計画」の平成 27 年度の目標値。平成 23 年度に目標値見直し予定) 【現状】 22,220 t (平成 21 年度)

●粗大ごみ収集運搬事業

事業の概要	目標指標
市民が排出する粗大ごみを収集運搬、処理します。処理にあたっては排出する市民から手数料を徴収しています。	受益者負担の原則に基づき、粗大ごみを排出する市民の負担のもと、適正に粗大ごみが処理される状態を維持します。 【目標】 上記内容を目標とします 【現状】 手数料 6,859,050 円 処理件数 2,905 件 処理量 173 t (平成 21 年度)

●容器包装対象物収集運搬事業

事業の概要	目標指標
市民にごみを 11 種類に分別排出するよう依頼し、市は分別されたごみを収集し、処理施設に搬入しています。	容器包装リサイクル法に基づき、市民が適正排出を実践し、廃棄物から分別されることにより資源となる廃棄物が増えています。この状況を引き続き維持します。 【目標】 上記内容を目標とします 【現状】 2,020 t (平成 21 年度)

●一般家庭用可燃ごみ収集運搬事業

事業の概要	目標指標
週 2 回、市民が可燃ごみステーションに排出する一般家庭用可燃ごみを収集し、乙訓環境衛生組合に搬入して適正に焼却処分します。また、業務を効率化するため、収集運搬を業者に委託しています。	可燃ごみの排出抑制や分別収集の実施により、一般家庭用可燃ごみの排出量は数年横ばい傾向が保たれています。このような状況を引き続き維持します。 【目標】 上記内容を目標とします 【現状】 14,218t (平成 21 年度)

施策に関するトピックス

資源の有効利用と廃棄物の減量

本市では昭和 53 年から分別収集（空きカン・空きビン・金属・古紙・埋立）を開始し、昭和 59 年に廃乾電池を追加しました。

平成 11 年にペットボトルを追加し、平成 12 年には、スプレー缶・カセットボンベを、平成 13 年からは資源ごみ 11 区分（アルミカン、スチールカン、スプレー缶・カセットボンベ、ペットボトル、その他不燃物、その他プラスチック、ビン（無色）、ビン（茶色）、ビン（他の色）、筒型乾電池、蛍光灯）の収集を行っています。

これらをはじめとする資源の有効利用と廃棄物の減量により、地球環境の保全や廃棄物処理場の延命化に取り組んでいます。



資源物の分別方法（資源物A類）

施策4 快適な生活環境の実現

■目的

- ・市民の環境美化に対する意識を高め、ごみや不法投棄のない清潔で快適な環境づくりを推進します。

■主要な事業

●環境美化推進事業

事業の概要	目標指標
不法投棄などの防止のための環境パトロール及び「長岡京市まちをきれいにする条例」の啓発活動を実施します。	不法投棄などを防止することで投棄物の減少を図ります。 【目標】 10 t（平成 27 年度） 【現状】 14 t（平成 21 年度）

施策に関するトピックス

長岡京市まちをきれいにする条例

タバコのポイ捨てや犬のふん害などの生活環境に関する問題は、本来マナーの問題ではありますが、美化意識の向上を図るために、市民や事業者、行政のそれぞれの責務を定めた「長岡京市まちをきれいにする条例」を平成 18 年に制定しました。

JRや阪急の駅前での条例を広くお知らせするための啓発活動や、ごみ回収などのボランティア活動に対する支援などを行っています。

市職員の美化活動
（長岡京市役所）

第2期基本計画までの成果と課題

本市域の西部に位置する西山の森林面積は約 800 ha で、市の面積の 40% を占めており、この西山から生まれる地下水は、古くから豊かで良質な水源として「天王山・西山水系」と称されています。一方で、近年の西山は、社会情勢や生活様式の変化などにより、手入れが不十分な山林や放置された竹林が増加するなど、その姿が変わりつつあり、生態系への悪影響や竹林が侵食することによる人工林の荒廃と水源かん養機能の低下への対応が求められています。



環境教育のための「西山ファミリー環境探検隊」
(西山キャンプ場)

このような西山の状況を危機的状況としてとらえ、市民の宝である豊かな森林環境の保全と育成を推進するため、森林所有者、地域住民、企業、NPO、大学及び行政が連携し、平成 17 年 6 月に「西山森林整備推進協議会」が設立されました。協議会では平成 18 年 2 月に「西山森林整備構想」を策定し、多くの市民ボランティアに支えられながら、構想に基づく森林環境の保全育成のための活動に、官民一体となって取り組んでいます。今後は「メモリアルの森^{※1}」のような西山と市民との関係を深められる場の創出や、未来につながる森づくりを目指すための具体的取り組みを示す「(仮称) 西山百年の森計画」の策定などが求められるところです。

また、市街地の緑化を進め、うるおいのある空間を形成するには、行政だけでなく、市民や企業の協力が必要とされます。平成 16 年からは緑化や美化活動を行うボランティアの登録制度である「みどりのサポーター制度」を開始し、現在、50 団体以上が身近な公園や緑地、道路の清掃、花や樹木の管理を行っています。この制度による市民意識の高まりもあり、市民による河川や法定外公共物^{※2}などの緑化や環境美化も進んでいます。

今後も様々な取り組みを通じて、環境活動や緑化活動への市民参画を促進することが必要です。

基本的な方向

市民が気軽に緑にふれあい楽しめる、緑豊かな環境づくりを目指します。

※1 メモリアルの森…結婚や出産などを記念して植樹する森林ゾーン。

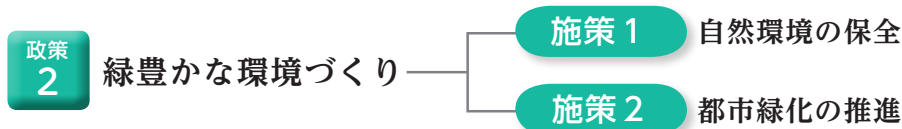
※2 法定外公共物…道路法や河川法などの適用を受けない里道や水路のこと。

政策に関連する計画

長岡京市緑の基本計画《平成16年度～》

緑豊かなまちづくりを実践するため、中長期的視野に立った緑地の保全及び緑化の目標や実現のための施策などに関する総合的な指針として策定。

施策体系



施策と主要な事業

施策1 自然環境の保全

■目的

- ・新しい道路の建設に伴う環境の変化に対応し、一層の環境配慮を推進します。
- ・市民や企業、行政が一体となり、西山の緑や竹林などの市の豊かな自然環境を保全します。

■主要な事業

●ホタルの育成と保護の推進事業

事業の概要	目標指標
「長岡京市ゲンジボタルを育てる会」と協力し、ゲンジボタルの保護と育成を行います。	ゲンジボタルの保護育成を推進し、ゲンジボタルの生息地の拡大を目指します。 【目標】 西代橋周辺から菩提寺橋周辺までのホタル生息（平成27年度） 【現状】 西代橋付近から金ヶ原橋付近まで（平成22年度）

●西山森林整備推進事業

事業の概要	目標指標
市民や環境団体、企業、行政など地域の多様な主体の連携により設立された西山森林整備推進協議会を中心に、西山の保全を図ります。	多くの市民に西山森林整備推進協議会の活動を知ってもらうために森林ボランティア体験行事を開催するとともに、森林ボランティア団体数の増加を目指します。 【目標】 森林ボランティア活動団体数 22 団体（平成27年度） 【現状】 森林ボランティア活動団体数 18 団体（平成22年度）

西山は、次世代を担う子どもたちの体験型環境教育（次世代教育）の場としても整備が進められ、西山キャンプ場の整備や小学生の親子を対象とした「西山ファミリー環境探検隊」などの事業が行われています。

また、平成 22 年度からは、小学校の環境学習プログラムに西山の自然観察が導入されるなど、自然体験型の環境教育の場としての役割も期待されています。

西山でのいろいろな体験を通して、西山の自然のすばらしさを多くの子どもたちに伝えます。



西山キャンプ場

施策 2 都市緑化の推進

■目的

- ・市民が気軽に緑にふれあい楽しめるよう、市街地の緑化を進め、うるおいのある空間を創出します。
- ・市民と協力しながら、市街地の緑化や緑化保全への取り組みを進めます。

■主要な事業

●公園緑地整備事業

事業の概要	目標指標
公園及び緑地の整備を促進します。	公園及び緑地の整備促進を図ります。 【目標】市南部地区整備に伴う公園の増及び開発提供公園による増（平成 23 ～ 27 年度） 【現状】公園及び緑地 223 か所（平成 21 年度）

●みどりのサポーター制度促進事業

事業の概要	目標指標
緑化や美化活動を行うボランティアの登録制度である「みどりのサポーター制度」を促進します。また、登録団体には、用具の貸し出しや傷害保険の加入などの支援を行います。	緑化と美化活動に取り組むボランティア団体の数を増やします。 【目標】95 団体（平成 27 年度） 【現状】59 団体（平成 21 年度）

●身近なみどりの創出事業

事業の概要	目標指標
市民の協力を得ながら河川、学校などの公共空地や民有空地について、樹木や花の植栽などの緑化を行います。	緑被面積（樹木の樹幹、または地被類に覆われた面積）を増やします。 【目標】 地被類を含む緑被面積 3,000㎡（平成 27 年度） 【現状】 地被類を含む緑被面積 1,888㎡（平成 21 年度）

施策に関するトピックス 身近なみどりの創出事業

毎年春になると、いつもの場所のあの桜が、私たちを楽しませてくれます。わざわざ遠くへ花見に行かなくても、私たちの暮らしの中に息づく花や緑で、季節を感じられる身近な風景を豊かにしたい、という市民の思いがあります。

そんな思いの実現に向けて、本市では平成 17 年度から「身近なみどりの創出事業」として、道路や河川沿い、公園などに1本、1本ていねいに、桜を中心としたまちを彩る緑を植えています。



道路沿いに植樹した桜
（開田1丁目）

第2期基本計画までの成果と課題

下水道（污水）事業については、人口普及率が98.9%（平成22年度）となりました。今後は、整備から維持管理事業へ移行し、安定した長期的経営を目指し、下水道施設の改築更新を計画的に推進していく必要があります。事故の未然防止とライフサイクルコスト^{※1}の最小化を目指す下水道施設の長寿命化計画など、いわゆるストック・マネジメント^{※2}やアセット・マネジメント^{※3}に取り組むことが求められています。

一方、公共下水道使用料の徴収事務を水道事業管理者に委託することにより、事務の効率化による污水处理費の削減を図ってきましたが、公共下水道長期的経営の効率性と安定性をさらに高めるためには、受益者負担の原則に基づく、適正な下水道使用料の設定が必要です。

近年多発する集中豪雨時には、浸水のおそれのある地域の雨水を下水道に放流し、市民の生命や財産を水害から守らなければなりません。本市では浸水対策として、京都府が実施する桂川右岸流域下水道（雨水）建設事業の建設費を一部負担してきました。今後は、本市域を中心とした南幹線地域の早期着工が望まれます。

さらに、浸水のリスクを軽減し、市民生活の安全性の向上を図るとともに、地下水のかん養などによる健全な水循環機能の再生を目指すことが、循環型社会において求められています。



治水対策などにも有効な雨水貯留タンク
（長岡京市役所前）

基本的な方向

公共下水道事業の計画的な整備を進め、快適な生活環境を確保します。また、河川及び水路について治水対策を進めるとともに、親水空間の創出を進めます。

政策に関連する計画

長岡京市公共下水道事業計画〈昭和48年度～、平成21年度改訂〉

都市環境の向上と安全で快適な市民生活を確保するため、効率的に下水道の整備を進めるとともに、より適切な維持管理を図るために策定。

※1 **ライフサイクルコスト** … 施設整備において、計画から設計、建設、維持管理、運営、修繕、解体処分までの全期間にかかる費用。

※2 **ストック・マネジメント** … 施設の現状や機能を診断し、社会経済状況を考慮しつつ長寿命化や効率的な運用を目指すための手法。

※3 **アセット・マネジメント** … 施設を資産（アセット）にとらえて、現状を定量的に評価し、それが中長期的に最適になるように、計画的かつ効率的に管理する手法。

施策体系

政策
3

水環境の整備

施策 1 下水道(汚水)事業の推進

施策 2 浸水対策

施策と主要な事業

施策 1 下水道(汚水)事業の推進

■目的

- ・河川や水路の水質保全と快適な生活環境の確保に向けて、下水道施設の長寿命化のための事業を進めます。
- ・下水道事業の効率的で安定的な運営のために、企業会計移行^{※4}の検討を含め、経営の健全化を図ります。

■主要な事業

●下水道特別会計繰出金事業

事業の概要	目標指標
長期的経営の効率性と安定性をさらに高めるために、企業会計移行を検討するとともに、使用料と一般会計繰出金 ^{※5} の適正な負担区分を明確にします。	懇談会提言による安定した使用料収入を確保し、中長期計画に基づく事業を着実に執行することにより、一般会計繰出金の軽減を図ります。 【目標】 繰出金の適正な執行 (平成 23 ～ 27 年度) 【現状】 繰出金 1,037,000 千円 (平成 21 年度)

●下水道長寿命化事業

事業の概要	目標指標
「下水道長寿命化計画」を策定し、実施します。	平成 25 年度までに、下水道地震対策緊急整備計画 ^{※6} による管路耐震化やマンホールトイレの整備などを実施し、あわせて長寿命化計画を策定します。 平成 26 年度以降は、下水道施設の長寿命化計画により目標指標を決定します。 【目標】 下水道地震対策緊急整備計画による管路耐震化、長寿命化計画の策定 (平成 25 年度) 【現状】 下水道台帳のデータベース化の完了 (平成 22 年度)

※ 4 企業会計移行 … 現在の官庁会計方式 (単式簿記などを特徴とする。) から、地方公営企業法の財務規定などを適用することにより、企業会計方式 (複式簿記などを特徴とする。) にすること。

※ 5 一般会計繰出金 … 一般会計から特別会計へ繰り出しされるお金。下水道特別会計においては、下水道使用料で賄うべきものの以外の経費について、国の繰出基準などにに基づき、一般会計から繰り入れられるものを指す。

※ 6 下水道地震対策緊急整備計画 … 防災拠点などへの動線となる緊急輸送路下の重要な幹線などの最低限の機能確保を行うための耐震対策計画。

●「下水道アセットマネジメントシステム」（仮称）の構築事業

事業の概要	目標指標
下水道アセットマネジメントシステムを構築します。	耐震化、長寿命化による施設信頼性の向上を進めるとともに、使用料と市民満足度のバランスを検討します。 【目標】アセットマネジメント指針の策定（平成 26 年度） 【現状】下水道台帳のデータベース化の完了（平成 22 年度）

施策に関するトピックス 下水道の長寿命化

本市の下水道は昭和 54 年度に供用を開始しました。一定の年数が経過する中、下水道管が突然破損し、道路が陥没するなどの事故を未然に防ぐため、また全体としての経費を下げるため、現在、下水道管やマンホール、ポンプなどの下水道施設について、補修や改築などによる長寿命化が必要となってきました。

本市では、下水道台帳管理システム（データベース化された施設台帳）をもとに、施設の健全度評価（点検、調査、対策検討）を行い、機能低下によるリスクの把握に努めています。

続けて、診断結果をもとに施設の補修（一部の更生、布設替など）や改築シナリオを設定し、下水道運営計画（長寿命化）を適切に実施していきます。



下水道管の調査（調子付近）

施策 2 浸水対策

■目的

- ・近年多発している集中豪雨により、浸水被害が発生するおそれがあることから、下水道（雨水）整備をさらに進めることにより、河川や水路の氾濫を防止し、浸水被害から市民を守ります。

■主要な事業

●流域下水道（雨水）建設負担事業

事業の概要	目標指標
下水道の広域化のために進められている桂川右岸流域下水道（雨水）建設事業の建設費の一部を負担します。	桂川右岸流域下水道（雨水）建設事業の事業負担金の妥当性を検証し、説明責任を果たします。 【目標】負担金の検証と適正な執行（平成 23 ～ 27 年度） 【現状】建設負担金 24,603 千円（平成 21 年度）

●下水道（雨水）築造事業

事業の概要	目標指標
風呂川排水区の今里雨水貯留幹線 ^{※1} に流入する周辺水路の整備が平成21年度で完了したので、今後は野添川の整備に着手します。	風呂川排水区の整備率（整備済み面積÷事業認可区域面積（65.14ha））を高めます。 【目標】99.0%（平成27年度） 【現状】92.8%（平成21年度）

●水循環再生プラン事業

事業の概要	目標指標
雨水の貯留浸透などを主とした「水循環再生プラン」を策定し、その計画により雨水貯留浸透施設などの設置を進めます。	平成23年度に基本計画を策定します。それ以降の目標指標（雨水貯留浸透施設の設置数など）と期限は平成23年度に設定します。 【目標】基本計画の策定と啓発パンフレットの作成（平成23年度） 【現状】浸透実験の実施（平成22年度）

施策に関するトピックス 雨水貯留浸透施設

雨水貯留浸透施設とは、雨水を一時的に貯めたり地下に浸透させたりする機能を有する施設を指します。これにより、河川などへの雨水流出量を抑制するなどの効果が期待できます。

貯留施設には、各戸の雨水貯留タンクや公園・校庭の地下貯留施設などが、浸透施設には、各戸の浸透ますや道路の浸透側溝などがあります。

現在は「水循環再生プラン」の策定にあたり、市内の公園や校庭で現地浸透実験を実施したところです。これを踏まえ、設置場所に合致した浸透施設や貯留施設を選択しながら事業を推進し、浸水の被害の軽減などを目指します。



校庭での浸透実験
（長岡第三小学校）

※1 雨水貯留幹線… 激しい降雨により、河川^{かんきよ}の能力を超えた雨水を一時的に貯留する管渠（管による水路）。

第2期基本計画までの成果と課題



水道施設の見学(東第2浄水場)

本市の水道事業は、地下水と府営水の二元水源による安定給水を確保し、健康で文化的な市民生活や社会経済活動を支えるライフライン^{※1}として、重要な基盤整備を担ってきました。「安定した水の供給」は市民アンケートの中でも、最も重要度が高い項目という結果になっています。

しかし、近年、水需要が年々減少し、料金収入が伸び悩む一方で、老朽化した施設の整備や耐震化、一層厳しくなる水質基準への対応、さらには水道技術の継承など、本市の水道事業を取り巻く環境は厳しくなっています。

その中であって、本市は、安全な水の安定的供給のため、「長岡京市ふれっしゅ水道計画」や「長岡京市水道事業経営改善計画」に基づき、計画的に事業を実施してきました。これまでに、老朽管の更新などによる有収率の向上や鉛管^{※2}取替による安全性の向上、効率的な水運用による受水費と動力費の軽減、窓口業務の包括的な民間委託化などによる総収支比率^{※3}の改善など、徹底した経営の効率化に努め、大きな実績を残してきました。

今後も、給水サービスの一層の向上に向けた水道事業の経営基盤の強化は不可欠であり、各種業務の見直しや施設の統廃合、さらには府営水道3浄水場接続後の供給料金の問題などへの対応が求められます。このため、平成22年度からの次期計画である「長岡京市水道ビジョン」や財政計画も勘案した「水道事業中期経営計画」に基づき、計画的に事業を実施する予定です。

基本的な方向

安全で良質な水の安定的な供給と健全な水道事業の経営を目指します。

政策に関連する計画

長岡京市水道ビジョン<平成22年度～31年度>

将来にわたり安全で安心できる水の持続的な供給を確保するため、「長岡京市水道ビジョン」に基づく「水道事業中期経営計画」を策定し、事業を実施することにより、健全な水道事業の経営を目指して策定。

※1 ライフライン … 電気やガス、水道、通信など、都市における市民の社会生活の根幹をなす施設や機能のこと。

※2 鉛管 … 小口径の鉛製給水管。材質が柔らかく加工しやすいので、平成元年までは全国の水道事業体で家庭への引き込み給水管として使われていたが、水に含まれる鉛の基準値が改正され、鉛製給水管の取り換えが進められている。

※3 総収支比率 … 総費用に対する総収益の割合(%)。100%以上であれば総収益が総費用を上回っていることになるため、100%以上であることが望ましい。

施策体系

政策
4

安定した水の供給

施策1 安全な水の安定供給

施策2 水道の経営基盤強化とサービス向上

施策と主要な事業

施策1 安全な水の安定供給

■目的

- ・計画に基づき、老朽化した施設や設備を再構築及び更新するとともに、耐震化などの災害対策を進めます。

■主要な事業

●主要幹線管路の計画的更新事業

事業の概要	目標指標
更新計画に基づき、老朽化した主要幹線（直径 150mm 以上）の配水管を取り替えます。	主要幹線管路を更新します。 【目標】 毎年度、250 ～ 500m（平成 23 ～ 27 年度） 【現状】 60m（平成 21 年度）

●鉛製給水管の取替推進事業

事業の概要	目標指標
給水管（鉛管）の取替を計画的に実施します。	鉛管の取替を進め、鉛製給水管率を低下させます。 【目標】 10%（平成 27 年度） 【現状】 20.3%（平成 21 年度）

●配水池の統合事業

事業の概要	目標指標
老朽化した北及び長法寺配水池※ ⁴ の統合を実施します。	配水池の統合を完了します。 【目標】 100%（平成 27 年度） 【現状】 5%（平成 22 年度見込み）

※ 4 配水池 … 浄水場で作った水道水を各家庭へ配るために一時蓄えておく池（タンク）。使用水量の時間的変動に応じて円滑な配水を行う機能を有している。

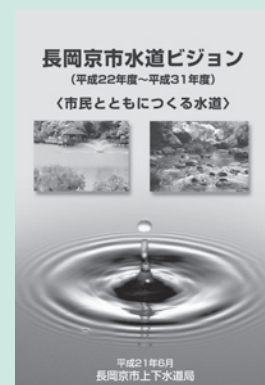
●基幹管路の耐震化事業

事業の概要	目標指標
更新計画に基づき、基幹管路（直径300mm以上）の耐震化を実施します。	基幹管路の耐震化を進めます。 【目標】40%（平成27年度） 【現状】23.7%（平成21年度）

施策に関するトピックス 水道管の更新（長岡京市水道ビジョン）

現在、市内には導水管^{※1}、送水管^{※2}、配水管^{※3}を合わせて、総延長約270kmの水道管が埋設されています。そのうち、事故などの際に影響の大きい直径150mm以上（約100km）の管を主要幹線に位置付けて、老朽化（法定耐用年数を経過）した水道管を、長岡京市水道ビジョンに基づいて更新することとしています。

今後10年間に法定耐用年数を経過する主要幹線の延長は約20kmに達します。経過年数だけでなく、その重要度と漏水事故発生履歴などを参考に、耐震化とあわせて計画的に更新を進め、事故を未然に防止します。



長岡京市水道ビジョン

施策2 水道の経営基盤強化とサービス向上

■目的

- ・水道事業の技術的及び財政的運営基盤を強化し、安定した事業経営を行い、サービスの向上と信頼される事業運営に努めます。

■主要な事業

●事業経営の適正化事業

事業の概要	目標指標
老朽管の更新などによる有収率 ^{※4} の向上や、効率的な水運用による受水費と動力費の削減を図り、適正な水道料金徴収などの取り組みを行います。	総収支比率（総収入÷総支出）を100%以上に維持します。 【目標】100%以上を維持（平成23～27年度） 【現状】101.3%（平成21年度）

※1 導水管 … 川や地下水源で取水した原水を浄水場まで導く水道管。

※2 送水管 … 浄水場で作った水道水を配水池まで送る水道管。

※3 配水管 … 配水池に一時蓄えた水道水を各家庭や事業所まで配る水道管。

※4 有収率 … 有収水量（給水収益の対象となった水量）を給水量で除した指標。「有収水量÷総給水量」で算出され、給水された水量がどの程度収益につながっているかを示す。

施策に関するトピックス

水道のサービスの向上

本市では、水道事業運営に必要な経費に見合った水道料金を算定するとともに、市民が水道水を直接そのまま飲むことができるよう、安全で安心できる水を持続的に供給するようにしています。

水質に関する情報や料金の仕組みなどを積極的に市ホームページや広報紙「長岡京水だより」に掲載したり、施設見学会を通じて情報提供することで、水道のサービスの向上を図っています。



長岡京水だより